

## 2025 ビジョン策定に向けた各アンケート調査結果からの示唆

### 1. 在住者アンケート

#### ■神戸に継続して住み続けてもらうために

- ・「神戸市に住み続けたいか」という質問に約 60%の人は「住み続けたい」と回答。一方、「住み続けたいと思わない」人も 10%弱いる。
- ・神戸市に住み続けたい理由は、「交通の利便性」が最も多く、「地域の様子・雰囲気」が気に入っている」がこれに続く。一方、住み続けたくない理由は、「子育てをする環境が整っていない」が最も多く、「経済的な活気がない」がこれに続く。

※ ネットモニターアンケートの結果

今年実施したネットモニターアンケートの「2020 ビジョンの施策の柱のうち取組みが足りないと感じるもの」という質問の結果も「若者に魅力的な仕事づくり」や「若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり」という回答が多かった。

⇒「子育て環境の充実」、「経済の活性化」は重点的に取り組む必要。「子育て環境の充実に」に関しては、PRにも力を入れていかねばならない。

#### ■「理想的な子どもの数」を持っていただくために

- ・「理想的な子どもの数」よりも「予定している子どもの数」の方が少ない傾向。
- ・「子供を産み、育てるために必要な取り組み」では「保育所等、保育施設の拡充」と答えた人が最も多い。

⇒保育施設の拡充には引き続きしっかりと取組まなければならない。各地域の状況を分析しながら、対応していくことが必要。

#### ■神戸市に対する評価から

- ・各分野の評価に関し、「魅力的な住まい」や「良好な住環境」などの「暮らす環境」、「神戸に住むことへの誇り」や「都市としてのブランド」などで特に高い評価を得ている。
- ・「楽しむ場所」としての評価に関しては、「食の充実」に対し高評価を得ている一方、「若者を惹きつけるような都市づくり」は比較的低い評価となっている。

⇒高評価を得ている「暮らす環境」や「都市としてのブランド」は引き続き維持・向上するとともに、PRを通して人口流入に繋げていかなければならない。

⇒若者を惹きつけるために、「食の充実」といった強みは伸ばしていく一方、再開発などを通してより魅力的な都市をつくっていくことが重要。

### 2. 転入者・転出者アンケート

#### ■転入・転出理由から

- ・転入・転出理由は、どちらも「結婚」のほか、回答者や配偶者の「就職・転職」、「転勤」が多い。

⇒仕事と居住地の移動はセットであることが改めて確認できたことから、成長分野や雇用創出効果の高い企業の誘致を進めていくことが重要。

### ■Uターン意向から

- ・転入者のうち約35%の方が「神戸に以前住んだことがある」と回答し、また転出者のうち約50%の方が「将来神戸市に戻ってきたい」と回答。

⇒Uターン希望者は一定数いることが確認できたことから、これらの層に継続的にアプローチを続けていかなければならない。

## 3. 大学生アンケート

### ■就職に関する意識から

- ・大学生の出身地の約70%が「市外」また現住所の約45%が「市外」と、市外から多くの人が神戸の大学に通っている。
- ・就職希望地や居住希望地では「神戸市」は約35%~40%に留まっており、実際に市内の企業等に就職活動を行っている割合も約35%に留まっている。
- ・勤務地の応募先を決める際には「業種」や「職種」が重視される。

⇒市外から神戸の大学に通っている層を卒業後取り込めていない状況が続いている。特に重視される「業種」や「職種」について、若者に魅力的なものは何なのかの分析を進め、企業誘致、産業創出を行っていくことが重要。

### ■就職情報の入手方法から

- ・市内企業等に就職活動を行っていない理由として、「就職情報を得にくい」という回答も一定数ある。
- ・市内企業等の情報の入手方法としては、「大学内での説明会」や「企業を集めた就職フェア」が比較的重視されている。

⇒市内企業等に関する情報を希望する学生にしっかりと届けていくことも必要。

## 4. 市在住外国人グループインタビュー

### ■市の強み及び弱みから

- ・「多文化を受け入れる包容力」に強みがある一方、多言語対応や情報発信、コミュニティの確保などに課題がある。
- ・インタビュー参加者の中の数人は一度神戸を離れたが、愛着や住みやすさなどから戻ってきた。

⇒課題に着実に対応し、「多文化共生」を進めていかなければならない。

⇒将来的に定住してもらうには、まずは一度住んでもらうことが必要である。